

西幼稚園学力向上推進計画

令和5年度報告

1 目 標：幼児一人一人の「確かな学び」を向上させ「生きる力」を育む幼児の育成

【学推の目指す幼児像】

「友だちのよさに気づき、認め合い、思いやりをもって関わり合える幼児の育成」

～子ども同士のつながりを深めるための「よさを認め合う」関係づくりを通して～

2 基本方針

- (1) 「幼稚園教育要領」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」、「学校教育における指導の努力点」及び「伊江村学力向上推進要項」を踏まえ、本園の課題を解決するための取組や特色ある取組を推進する。
- (2) 幼稚園で身につけるべき内容を定着させる取組みの充実を図る。
- (3) 学校・家庭・地域・行政が連携協力し、日常的な取組を推進する。
- (4) 学力向上マネジメントに基づき、実効性のある学力向上の取組をする。

3 推進のための6つの視点

- (1) 幼児の実態に沿った目標を設定し、幼児一人一人が主体的に活動に取り組める計画を立てる。（主体性）
- (2) 幼児一人一人の実態を把握し、一人一人の課題に応じた対応をする。（課題性）
- (3) 幼児一人一人の課題を明確にし、具体的な計画に基づいた幼稚園生活の中で、様々な学びの体験ができる取組をする。（具体性）
- (4) これまでの成果と課題を踏まえた幼児一人一人への課題に対して、日常的な手立てや、援助の工夫をする。（日常性）
- (5) 幼児一人一人を把握し、実効性のある経験や体験を通し、学びの基礎の習得の推進。（実効性）
- (6) 園・家庭・地域・行政、校種間をつなぎ、目指す幼児、児童、生徒像の共有をし、連携を図り学力向上の取組を推進する。（連携）

4 取組の重点

◎15の島建ちを見据え、園、家庭、地域、行政が連携したこれからの時代に求められる資質・能力【資質・能力3つの柱】を幼児に身につけさせ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえた指導計画のもと、生きる力を育む。

(1) 確かな学力の向上

①「知識・技能の基礎」の育成

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたりできるようになる。

- ・ 基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得 ・ 身体感覚の育成
- ・ 規則性、法則性、関連性等の発見 ・ 様々な気づき、発見の喜び
- ・ 日常生活に必要な言葉の理解
- ・ 身体的技能の基礎や芸術表現のため の基礎的な技能の基礎の獲得等

②「思考力・判断力・表現力」の育成

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。

- ・ 試行錯誤、工夫 ・ 繰り返し、次への見通し ・ 自分なりの表現 ・ 表現する喜び
- ・ 予想、予測、比較、分類、確認・他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
- ・ 言葉による表現伝えあい

③「学びに向かう力、人間性等」の育成

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。

- ・ 思いやり ・ 安定した情緒 ・ 自信 ・ 相手の気持ちの受容 ・ 好奇心、探求心
- ・ 葛藤、自分への向き合い、目的の共有、協力・色・形・音などの美しさや面白さに対する感覚
- ・ 自然事象や社会現象への関心等

(2) 豊かな心の育成

①人間関係づくりの力をはぐくむ取組の充実

- 自己肯定感を高め、人とかかわる力を育む。○ 言葉による伝え合う力を育む。
- ②社会性をはぐくむ取組の充実
 - 保・幼・小・中・地域等との連携を活かした保育の充実。
 - 幼児期の特性を踏まえた生活経験の充実。
- ③規範意識・マナーの育成
 - 道徳性の芽生えを育む取組。○ 身の回りの整理整頓や自他の物を大切にする取組。
- (3) 健やかな体の育成
 - ①自分の体の健康について関心を持つ取り組み
 - 生活との関連を図った健康づくりの充実。○ 日常的な運動、遊びをとおした体力作りの充実。
 - ②基本的な生活習慣の形成
 - 早寝、早起き朝ごはんなど、子どもの健康的な生活リズムの習慣化。
 - 好き嫌いを減らすなど、バランスのとれた食事。
 - 汚れたらどうするかを自ら考え対応し身を清潔に保つ取り組み。

5 具体的な取組

園内研修による保育具体的な取り組み

「友だちのよさに気づき、認め合い、思いやりをもって関わり合える幼児の育成」

～子ども同士のつながりを深めるための「よさを認め合う」関係づくりを通して～

取組のねらい	内容・実施方法
◎よさを認め合う関係づくり	・構成的グループエンカウターの手法を取り入れ、子ども同士のつながりを深めていく。また、協同あそびを取り入れ、友だちとの関係づくりのきっかけにしていく。 *構成的グループエンカウターとは リーダー（教師）の指示した課題をグループ（小集団）で行い、その時の気持ちを伝え合い、心と心のキャッチボールをすること。自分や他者の気持ちに気づき、人間関係づくりを意図的・計画的に実践していくこと。 ・よさを認め合える場の設定と友だちのよさに気づき、認め合う関係づくりのための環境設定を工夫していく。
◎教師のかかわり	・教師のかかわり方や言葉かけ、援助の工夫。 ・日々の保育実践の中から保育記録の充実を図り、幼児の姿の変容をミーティング等で共有し援助の仕方について話し合い保育に活かす。 ・グループ活動を通し、友達との関わり合いが持てるよう手立ての工夫をする。
◎保護者との連携	・保育ドキュメンテーションやお便り、ICT システムを活用して幼児の姿の変容を伝えていく。

(1) 確かな学力の向上

具体的な取り組み：ぴかぴかタイム（自分の道具の整理整頓）・国際理解の意識の芽生え



自分の道具を整理すると気持ちがよくなることを知り、整理整頓の方法を考え自分で行う。

友だちの整理の仕方を知り、お互いに確認し合うことで、よりよい整理整頓の仕方を見つけていく。

園長先生や ALT に日常的に英語の読み聞かせや「えいごであそぼう」を通して、異文化理解の環境を設定し、学習発表会では生活の中で触れた世界の言語を取り入れ、楽しく発表することができた。

(2) 豊かな心の育成

具体的な取り組み 事例：台風対策、片付けを通して



- ・事前に台風が来ることを話し、絵本や紙芝居で伝える。(自然との関わり・生命尊重)
- ・台風が来るとどうなるだろう？どうすれば良いかな？(思考力の芽生え、言葉による伝えあい)



- ・外にある物が飛ばされないように移動しよう(協同性)
- ・重たいな～でも頑張ろう(達成感、自己有用感)



- ・元の場所に戻す、汚れた幼稚園をきれいにする(道徳性・規範意識の芽生え)



- ・台風を免れた小さな生き物を発見(自然との関わり・生命尊重)
- ・どんなふうになるのかな？(予想、思考力の芽生え)



- ・やったー！ちょうちょになったよ。(美しさや面白さに対する感覚)お外に帰してあげよう(生き物を通じた相手の気持ちの受容)



- ・どんどん変化するね(好奇心)
- ・葉っぱ足りるかな？(思考力の芽生え、道徳性規範意識の芽生え)



- ・幼虫の食べ物は何だろう？(探求心、思考力の芽生え)
- ・一緒に探そう(協同性)



(3) 健やかな体の育成

具体的な取り組み 事例：フロアリズム、竹馬遊びを通して



- ・葛藤や自分への向き合いを通し、保育者に見守られ励まされ、難しいことやできないことに挑戦しようとする。(健康な心と体)



- ・何度も挑戦、練習を重ね、自分でできるようになった喜びを味わう(達成感、充実感)



具体的な取り組み 事例：給食を通して



- ・自分が食べられる量を調整してもらおう。「減らしてください。」(言葉による伝えあい)
- ・苦手なものも一口は食べてみる(健康な心と体)



- ・苦手な食べ物も少しずつ食べられるようになり、友達と楽しく食事をする事ができる。(健康な心と体)
- ・8時登園が習慣化し、基本的な生活習慣が身につき、完食 食缶ペロリができるようになった(基本的な生活習慣)



成果と課題

成果

- 構成的エンカウンターを保育の中に取り入れたことで、あまり関わりのない友だちとも関わり合えるようになり、声を掛け合って遊ぶ様子が見られるようになった。（協同性・言葉による伝えあい・豊かな心の育成）
- よいところさがしを教師や園児同士がすることで、友だちのよい行いを認め合い、自分も褒められたいとよい行いの輪が広がった。（道徳性・規範意識の芽生え、豊かな心の育成）
- 教師や保育者が子どもたちを見守ることで、安心して活動し、失敗してもお互いに声を掛け合い助け合う姿が見られるようになった。（自立心、協同性、豊かな心の育成）
- エクササイズ中には友だちとぶつかったら自然に「ごめんね」と言えるようになったり、相手をなかなか探せない子に声をかけたりと、友だちを気遣うような態度や言動が見られた。また、年度当初はじゃんけんの相手が見つからず、声をかけてもらうまで待っている姿がよく見られたが、今では自分から「一緒に入れて」と言葉で伝え、主体的に関係作りをしようとする姿がみられるようになった。（言葉による伝えあい、道徳性・規範意識の芽生え・豊かな心の育成）
- 帰りの会を利用し、よさを認め合える場を設定したことで、友だちのよいところに気づき、自信をもって活動できる子が増えた（自立心・確かな学力の向上）
- 入園、進級当初は、言葉を介してのコミュニケーション不足によるトラブルが多かったが「認め合い」を主とした保育の充実に努めたことで、あそびの中で言葉で伝え合う姿が多く見られるようになった。（言葉による伝えあい、確かな学力の向上、豊かな心の育成）

課題

- 心無い言葉により相手を傷つけたりする場面が多く見られる。あそびや生活の中で、伝えあう場面を丁寧に見守り、教師が正しい伝え方を示し、思いやりのある言葉のお手本になるよう、全職員共通理解の基で援助の仕方を工夫していく必要がある。
- 幼児のよりよい人間関係づくりには、家庭教育（愛着形成）も大切だと感じる場面が多々ある。子どもたちと過ごす時間の大切さや園での成果を伝え、家庭でも認めてもらえる経験を増やしていくことで、情緒が安定し学びに向かう力、生きる力が育まれていくと考える。家庭と連携し、人間関係の土台作りを推進していく必要がある。
- 「確かな学び」を向上させ「生きる力」を育む幼児の育成には、豊かな人間関係が土台となる。友だちのよさに気づいたり、思いやりの気持ちで接したり、困った時には助け合ったりするなどの力が、園生活の中で育ていけるよう職員が継続して研修等を通して共通理解し、子どもたちの豊かな心の成長につなげていく必要がある。
- 言葉での表現が苦手な園児が多い為、言語活動を意識した保育環境を整え、生活に必要な語彙を増やし、言葉を豊かにし、自分の思いを自分の言葉で表現できるような幼児の育成をめざす。